

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品製造業

1. <北海道 水産食料品 >
秋鮭漁は、前期77%と不漁の前期よりも更に低下した。組合員の工場は、秋鮭加工に集中しているものの価格が高騰しているため、仕入量の調整等、不良在庫に注意して操業している。
2. <岩手県 酒類 >
酒造蔵元は一斉に新酒仕込みを始めており、心配していた原料米についても作柄は昨年並みで一安心している。今年も良いお酒を仕込み、消費者に美味しい新酒が届けられることを期待したい。
3. <東京都 カレー粉 >
外食を含め少しずつ需要が回復しているが、原材料価格の高騰が厳しい。価格転嫁を早く実施した企業は、かえって売上が減少する等して収益が悪化している。
4. <奈良県 素麺 >
新年度の素麺製造が始まったが、厳しい残暑や天候不順の影響による生産の遅れや組合員の高齢化・人手不足等で生産数量は大幅に減少する見込みである。
5. <徳島県 味噌 >
味噌の生産量は前年同月比101.1%、出荷量は104.4%、前月比で生産量は104.8%、出荷量は101.4%であった。業務用の需要も回復しつつあるが、販売価格に転嫁しにくい状況が続いている。
6. <熊本県 調味料 >
値上げを行ったが、業務用は値上げ出来ていない組合員もいる。値上げ以上に原料の高騰があり、今回の値上げはその分の補填にもなっていない状況である。

繊維・同製品製造業

7. <山形県 成人女子・少女服 >
数ヶ月前から行っている工賃交渉が芽を出し始め価格転嫁ができそうではあるものの、まだ全体の状況改善には程遠い。10月からの賃金アップや更なる経費増への対応は不透明である。
8. <東京都 帆布製品 >
売上高が前年同月よりも17.8%増加した。今年度で初めての増加となったが、収益は赤字である。資金繰りについては、今後、景況が良くなると銀行借入れをしなければならなくなる。
9. <岐阜県 婦人子供服 >
残暑や生活必需品の値上げ等の影響が、9月の売上と消費は伸びなかった。売上高については昨年対比100%弱、コロナ禍前との対比では80%の水準に落ち着いてきた。
10. <京都府 染織整理 >
原料生糸の大部分を輸入に頼っているため、原料費が高騰している。加えて、エネルギー高の影響で蒸し加工などのコスト高が進んでいる。
11. <岡山県 アパレル >
ジーンズカジュアル関連は、コロナ禍の影響も縮小し外出が増えたことで秋物が好調で、前年同月比で上回りコロナ禍以前の水準に戻った企業も出始めている。
12. <香川県 手袋 >
全体的に商況は悪く、昨年並みの状況である（通年の70%）。アウトドア関連商品は好調であるものの円安の影響は非常に大きく、防寒用商品すべてのジャンルで利益が出ない状態である。

木材・木製品製造業

13. <青森県 製材 >
県内の製材所は依然として厳しい状況に変わらないが、最近、輸入材の一部において制限が解除され、本来の外材中心の新築が目立ち始めている。
14. <神奈川県 家具 >
ウッドショック以来の材料費高騰の1年となり、ピークを打った状態。対抗策として企業は販売価格の値上げに踏み切らざるをえないが、多くの中小企業は苦慮している。
15. <石川県 製材業、木製品 >
9月度売上は昨年比10%程度低い。外国産材の入荷は順調であり、港に入りきらない程になっている。プレカット工場も材料を多く抱えているため、価格も少しずつ下がっている。

16. <大阪府 木材加工 >

前年同月比、売上高は増加している。また、DIYやリノベーション等に係る木材の需要は増加傾向にあるものの、業界全体としては依然厳しい状況である。

17. <香川県 製材 >

全体に需要と供給のバランスが悪く、需要減、供給増の状況にあり、製品価格にも影響が出てきている。前年同月と比べ値下がり傾向にある。

18. <鹿児島県 木材・木製品 >

上半期は、前年比で大幅な減量・減額となった。素材単価は16%下落し、製材製品単価は32%上昇して一方、需要低迷から取引量が著しく減少している。下半期も需要の伸びは期待できない。

紙・紙加工品製造業

19. <北海道 加工紙 >

製紙メーカーの値上げを受け、貼合メーカーが10月からの値上げを発表した。シート12円/㎡以上、ケース20%以上とかつてない値上げ幅であるが、まだ具体的な動きはなく様子見である。

20. <茨城県 段ボール >

様々な物が値上りしたせい、お客様の製品等の動きが悪く、段ボール箱の生産数量が前年同月と比べると悪い。電気ガソリン資材等が値上がりしている分、収益が悪化している。

21. <愛知県 段ボール >

土産物関係は2回の三連休を控えた注文で好調であった。連休は共に台風の影響があったが、引き続き引き合いがあるので人出が戻ってきている感じである。

22. <京都府 紙製容器 >

全体的に前年同月と比べ好転しているが、景況はコロナ禍前の水準には戻っていないようである。値上げのアナウンスは頻繁にあるようだが、具体的な上げ幅、時期については動きがない。

23. <高知県 機械すき紙 >

県内家庭紙業界に大きな変化はなく、厳しい状況が続く。各種イベント、行事等々が、従来の状況に戻り、人流が活性化することを期待する。

24. <佐賀県 製紙販売・加工 >

原材料、副資材、消耗品の値上げによる価格転嫁がようやく出来ている中で、原材料等の2次値上げの動きがあり、それでは利益を確保できる状況にならない。

印刷

25. <岩手県 印刷・同関連 >

資材の値上げ分を販売価格へ転嫁しきれしていない。用紙の更なる値上げが12月にも予定されていることで収益の見通しが厳しい状況下にある。

26. <栃木県 印刷 >

用紙代が本年既に2回値上がり（各15%）しているが、先行きはまだまだ上昇する可能性がある。価格転嫁しているものの追いつかず、収益は悪化している。

27. <神奈川県 製本 >

8月よりは動きがあったものの昨年9月と同程度で、コロナ前と比べると大きく落ち込んでいる。倒産廃業の情報が多くなってきており、資金繰りが限界を向かえつつある。

28. <兵庫県 印刷・同関連 >

仕事量も低調で材料の価格の上昇により売上は低水準であった。全体的に景気が回復しないと我々の業種も盛り上がっていかないので、物価上昇とコロナ禍は早く収束して欲しい。

29. <高知県 印刷 >

売上については若干上昇、設備操業度は微増で、コロナ禍以前との比較でも若干回復傾向が見られる。しかし、用紙等の再度価格改定もあり、今後も厳しい状況が継続すると思われる。

30. <沖縄県 印刷・同関連 >

原材料高騰による販売価格が上がっているが、価格転嫁できない案件もある為、収益状況が下がっている。また、エネルギー関連も同様に上がっている為、更に収益への影響がある。

化学・ゴム

31. <茨城県 自動車部品 >

組合員の中には、業況が好調なところも一部あるが、全体としては厳しさが増している。特に、取引先の業務縮小による売上高の減少が激しい状況である。

32. <神奈川県 石油製品 >

輸入原料の建値の上昇や為替の円安に伴い、国内の原料価格上昇も加わり、販売価格への転嫁が追い付かない状況が続いている。

33. <長野県 プラスチック製品>

9月の成形品金型ともに売上は昨年同期を上回り、今期最高の数値となったが、収益面では燃料費や材料費の高騰等もあり、前年同月比としては落ちてしまった。

34. <大阪府 セルロイドプラスチック製品>

前月比25%増、前年比8%減。当月は僅かながら上昇しているが、原材料コスト上昇分の価格転嫁は一向に進まず、業界の景況としては極めて悪い状況が続いている。

35. <島根県 プラスチック製品>

材料価格上昇分を単価反映できたため、売価価格、販売金額の上昇に繋がっているが、その他（輸送費、光熱費、人件費等）については単価に反映できておらず、収益性は悪化傾向にある。

36. <広島県 プラスチック製品>

原材料価格等の高騰が予想以上であり、値上げ分を製品単価へ転嫁することが難しく、事業採算を大きく圧迫している。自動車関連は、回復傾向が見られるが、不透明感が強い。

窯業・土石製品製造業

37. <秋田県 生コンクリート>

9月の出荷数量は前年同月比107.5%で、4～9月の累計で107.1%となった。各地区で生コン価格の値上げを打ち出しているが、その浸透には今一つ業界の理解が得られていない。

38. <岐阜県 金属製品（輸出）>

プロ用の理美容はさみ、ラシヤ切はさみを製造している組合員は、コロナ禍で売上が下がるも1年で回復した。欧州向けの輸出用OEMはさみはウクライナ情勢の影響により受注が減少している。

39. <福井県 瓦工業>

瓦をあまり使わない屋根修理の注文が多いため売上が伸びず、一物件あたりの単価が低下している。引き続き生産調整を行い、在庫を極力抱えないようにしている。

40. <山口県 生コンクリート>

出荷量は、前月比93%、前年同月比103%。現時点では、セメント骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。生コン販売価格は県内で上昇傾向である。

41. <徳島県 生コンクリート>

9月の出荷量は昨年同月比、約22%の減少であった。要因は台風による雨の影響と官工事の受注減によると思われる。また、度重なるセメントの値上げ等による影響も多少影響が出てきている。

42. <宮崎県 窯業・土石製品>

台風被害により1工場が水害に遭い、1ヶ月以上の出荷停止を余儀なくされているが、組合の長所を活かし、他工場より出荷対応し、お客様へ迷惑がかからないよう運営している。

鉄鋼・金属製造業

43. <福島県 鉄構>

これまでに経験したことがないほどの値上がりが続いている。見積りを作成しても、実際に受ける時点では値上りしており、赤字覚悟で取らざるを得ないのが現状である。

44. <千葉県 機械部品>

原材料、資材、電気料金等製造に関するコストが増え、経営状況は悪くなっている。特に電気料金については、対前年比で約35%も増加している。

45. <石川県 一般機械器具>

エネルギー、原材料価格の高騰や円安で先行きが不安である。仕入コスト増加による収益圧迫で、価格転嫁は道半ばの状況。輸送用機械製造業は引合いが止まり、大変厳しい状態である。

46. <滋賀県 機械部分品>

売上は横這い状況である。原材料価格の上昇、製品（加工）単価の低下・上昇難等が収益をさらに圧迫している。今後、取引条件の改善に努め販売価格を改定することが急務である。

47. <島根県 非鉄金属>

昨対比30%増と久しぶりに高い数字。自動車が戻りつつあるが、月によって変動もあるし、メーカーによっても違いがあるので、ひとくくりで戻ったとはいえない。

48. <熊本県 異業種>

コロナの感染状況が収束に向かい売上増加に転じた企業がある反面、売上減少の企業もあり、二極化の様相を呈している。業界全体の収益性悪化は依然として回復していない状況である。

一般機器製造業

49. <埼玉県 一般機械機器>

鋼材関係の材料費は度重なる値上げにより、高値で推移している。ここへきて、運送費やゴム類等石油精製関連の製品の値上げがあり、収益状況は一部悪化の傾向にある。

50. <新潟県 機械器具 >
人手不足による人件費高騰、円安に伴う材料価格増により収益悪化の状況である。客先からの支給部材が遅れがちであり、突然のラインストップが発生している。
51. <富山県 金属工作機械 >
受注は前年同月比102.4%となり、工作機械は大幅に増加し、工具、油圧、ロボット関係は安定して徐々に回復傾向である。当面、受注は安定推移が期待できるが、厳しい状況に変わりはない。
52. <大阪府 印刷製本機械 >
この数か月、半導体を中心とした部材部品不足が顕著になっている。また、景気的世界的減速感から輸出を含め新規注文が激減しており、業界の景況感は極めて悪い。
53. <兵庫県 生産用機械器具 >
プラント品の受注売上については、製造業向け事業は大手飲料メーカー等からの受注もあり、量は確保しているが中小企業向けは弱含みである。
54. <福岡県 一般機械器具 >
仕入材料が2度、3度と値上がりがあり、客先きに交渉するが、なかなか受け入れてもらえず、交渉している期間の負担がきつい。一部の業種では、景況が好転している事業所もある。

電気機器製造業

55. <東京都 配電盤 >
受注残があるものの、翌期以降のものが大半を占めている。短納期案件は部品調達難（特にICチップ関連品）から受注を控えざるを得ない状況が続き、収益への影響が大きくなっている。
56. <山梨県 電気機械器具 >
9月から車部品や光学系部品などの受注の減少が顕著になっている。特に半導体関連部品の動きが悪く、販売し切れず在庫が増えることから、今後生産調整が数ヶ月は続くことが予測される。
57. <静岡県 電気機械器具 >
大型冷蔵庫は好調な販売が継続しており、高水準の生産が続いている。家庭用業務用エアコンは一部の輸入部品の調達問題が継続しているため制約はあるがピーク時並みの生産となった。
58. <三重県 電機機械器具 >
半導体関連の受発注がやや好調になっており、今後も全体の受発注量が増える状況が続くように期待している。
59. <鳥取県 電気機器 >
部材調達の影響はあるも傾向が予想できる状況になりつつある。業界動向は増産傾向にあるが、材料の動向に左右されている。依然人員不足状態が続いており利益確保は厳しい状況である。
60. <広島県 電気機械器具 >
新規受注はやや鈍化しているものの、増加していた受注残が売上に反映されてきたため、売上は前月比20%増加、前年同月比35%増加となった。

輸送用機器製造業

61. <群馬県 自動車・同附属品 >
大幅な落ち込みであった昨年と比較すると売上は増加した。全体的に受注量の増加を感じられ、人手不足感が高まっている。
62. <静岡県 輸送用機械器具 >
9月期は生産遅れ挽回計画が入り自動車生産は順調に推移したが、10月期の生産は半導体不足により生産調整が実施される見通しであり、不安定な状況が続く見込みである。
63. <愛知県 輸送機器 >
売上は前年同月比7%増。コロナ禍の影響を受け、鉄道車両関連部品製作が減少傾向にあるなか、建設機械部品が上向きとなってきており、前年同月比20%増である。
64. <三重県 輸送機器 >
市内の大手自動車メーカーでは、生産数挽回のため休日稼働を予定するも、部品供給の不足のため中止になった。平日でも一部は生産調整をしており、まだまだ挽回の見込みが立たない。
65. <長崎県 輸送機器 >
先月と概ね変化ないが、修繕船の最後の追い込みで操業率が多少上昇した。10月初旬に香焼工場（修繕）の仕事量が激減するが、社員や関係会社の仕事が確保できていない状況である。
66. <大分県 造船 >
建造船の種類変更（RCタンカーからバラ積船へ）による各職種の人員変更が終了。今後、船台工期短縮のため、増員を計画している組合員が多い。人員確保が難しい状況である。

その他の製造業

67. < 秋 田 県 曲げわっぱ >
製造に係る全ての経費が高騰しているが、価格転嫁には踏み切れず苦慮している。ウッドショック初期に各社値上済であるが、それ以後の原価高騰で企業体力を削りながら耐え忍んでいる。
68. < 東 京 都 ネームプレート >
半導体関連部品が不足している影響で、注文キャンセルになった製品が出始めた。素材、副資材、薬品価格の改定がバラバラに通知されるので、その全てを価格転嫁することができていない。
69. < 福 井 県 眼鏡工業 >
原材料高騰円安による製造コスト上昇によるコストアップとコロナ禍で落ち込んだ生産性が回復しないため、生産量が上がりず受注に対して売上高の伸びが薄い。
70. < 奈 良 県 毛皮革 >
毛皮加工は、今後に向けて新商品開発し販路を開拓していく必要があるが、エコファー(人工毛皮)の品質も良くなってきており、リアルファー(天然毛皮)を扱う業者が厳しい状況下に置かれている。
71. < 和 歌 山 県 その他 >
去年より売上は増加傾向にあるが、原材料の高騰により収益は変わらないように見受けられる。10月から値上げされる商品は多いものの買い控えが加速するのではないかと心配している。
72. < 香 川 県 綿寝具 >
9月の業況は、前年同月と比べて最悪である。小売店は全然売上がなく、50%以上の減少となった。来月には防衛省受注の仕事があるので、それまでの辛抱である。同業他社も同様である。

《非製造業》

卸売業

73. <宮城県 繊維製品 >
仕入原価の更なる追加上昇があり、売価に転嫁できず収益にかなり影響が出ている。イベント、旅行需要の回復基調が今後の物販に後押しされることを期待したい。秋物の動きがやっと出てきた。
74. <東京都 包装用品 >
値上げを遅らせた企業に注文が集中しているが、利益率が下がり、リピート品は他社に奪われてしまっているため、価格を維持できるどうかは分からず先行きの不安がある。
75. <富山県 非鉄金属製品 >
年末商戦に向けての動きがようやく出てきている。原材料費高騰の影響に伴う価格転嫁は、市場では受け入れられている感がある。
76. <滋賀県 電気機械器具 >
売上は前年比100%越え。一昨年の最も悪い状況からは回復傾向にある。しかし、原材料値上げの状況は他業界と変わらず起きている。約115%程度の原材料高騰が見られる。
77. <愛媛県 卸売 >
価格の上昇に加え、商品（部品）がなかなか入ってこなかったり、飲食雑貨等値上がり前の駆け込み重要があったりと苦戦している。
78. <大分県 食糧集荷 >
コロナ影響がまだ残っており、スーパーの米の売上について6～8月が過去最悪だったようで、卸の在庫が過去にないほど増えている。スーパーでは古米の特売が当分続くと思われる。

小売業

79. <北海道 各種食料品 >
9月は観光客増で売上は伸びた。一方、商品の価格上昇が著しく、魚価全般が上がっており、サンマ、鮭の入荷は少し良くなってきているが価格は下がっていない。
80. <青森県 食料品 >
昨今、関連業種飲食店等の閉店や生産者の離農など、コロナ関連の影響だけでなく各商材値上げ等、非常に厳しい経営環境が続いていると思う。
81. <群馬県 花・植木 >
秋彼岸や連休で贈呈用仏事用の需要が高まる月だが、夏の天候不順で花材が少なく仕入に苦慮した。また、彼岸は台風の影響もあり、思うような売上に結びつかなかった店舗が多く見られた。
82. <福井県 共同店舗 >
売上は全体で増加している一方、客数は改装効果が続く一部店舗を除き前年割れ。スーパーマーケットの不振も続いており、周辺商業施設との競合に打ち勝つ集客策が課題となっている。
83. <香川県 石油 >
原油価格の高騰の影響から、節約志向もあり、対前年比（取扱高）は5%減との報告があった。県外安売業者の進出もあり、廃業する組合員が増加している。
84. <長崎県 食肉販売 >
シルバーウィークがあった9月は、小売り、業務用卸共に低調であった。厳しい残暑に加え、週末毎に台風が接近するなど外的要因が消費行動に大きく影響を及ぼしたと思われる。

商店街

85. <山形県 商店街 >
物価高による値上げにより、買い控えや来店客数の減少が形となっている。値上げしても収益を確保できるとは限らない状況である。
86. <新潟県 商店街 >
朝晩の冷え込みにより、ようやく秋物商品が動くようになってきたが、全体ではまだ好調とはいえない。一部店舗では秋物セールが始まったようである。スタンプ売上は久しぶりに前年をクリアした。
87. <静岡県 商店街 >
9月にプレミアム率50%の地域クーポン券が販売され、好調な売れ行きであった。10月より使用できるので、売上アップに期待したい。

88. <京 都 府 商店街 >
今月に入って感染者数も徐々に減り、県民割りや入国規制の緩和も手伝って、休日には旅行者が増えてきたようだ。外国人もちらほら見かけるようになってきた。
89. <兵 庫 県 商店街 >
コロナも少し落ち着き、規制も緩和されてきたが、まだ少し不安はあり、商店街の活気はいまひとつです。多くの商店街の値上がりも影響あり、明るい材料は少ない。
90. <福 岡 県 商店街 >
9月からプレミアム商品券(紙型と電子型)を発行したが、売行きは好調である。商店街への人出も増えてきており、コロナ対策にも慣れてきて、アーケード内も活気が戻ってきている。

サービス業

91. <栃 木 県 ビルメンテナンス >
宅配関係の物流業務の売上高が前年より減少している。コロナ禍の下での特需が平常に戻りつつある。
92. <山 梨 県 洗濯・理容 >
組合員の多くが個人事業主であり顧客は固定客が多いため、原材料価格の上昇分を販売価格に転嫁することが難しく、売上・収益が上がらないのが現状である。
93. <愛 知 県 公衆浴場 >
気候も秋めいてきて、外出が苦にならなくなってきているが、依然として客足が戻ってこない施設がある。今後の冷え込む季節に向けて、来店客数の増加と重油価格の下落を期待する。
94. <山 口 県 理容 >
経営状況は良くなりつつあるが、各種原材料、資材の高騰が経営環境の悪化を招いており、価格転嫁もできない状況である。
95. <高 知 県 情報サービス >
特に目立った動きもなく、全体的には相変わらず人材不足が続いている。売上も上がっている感じはなく、好転している感じは見受けられない。
96. <宮 崎 県 観光 >
今月もコロナウイルスのため、予約の9割がキャンセルになった。他県のバス会社は廃業するところもあり、同じガイド業の廃業者も多いのが現状である。10月からの繁忙期に期待したい。

建設業

97. <福 島 県 建設 >
公共土木建築工事が若干増加してきている。資材価格の上昇が続いているが、設計価格の反映には時間がかかっている資材もある。
98. <埼 玉 県 塗装工事 >
台風の影響により作業の進捗状況に大幅な遅れが生じている。遅れを取り戻すため効率よく人の配置を考える必要がある。受注状況については好調に推移している。
99. <長 野 県 職別工事 >
各種値上げが続き、予算上限が決まっている為、値上げ分を見積もりに転嫁もできず厳しい状態。仕事はあり忙しい状況であるが、採用も進まず人手不足は続いている。
100. <滋 賀 県 板金工 >
資材や副資材の値上げが問題となっている。値上げの回数が多く、毎回価格転嫁するわけにはいかない。このような状況がいつまで続くのか見通しが立たない。
101. <奈 良 県 鉄構 >
年内～来年初め頃までは物件数も多く忙しいものの、各社の規模(グレード)に合う量の物件が少ない。材料の価格が上昇する反面、加工費がなかなか上がらない状況も続いている。
102. <長 崎 県 建設 >
県内の公共工事量は前年比より15.7%、件数で6.8%減少しているなかで、建設資材価格が高騰し、特に鋼材価格の値上がり幅は1.5倍を超えるものもあり、利益確保が難しい状況である。

運輸業

103. <宮 城 県 倉庫 >
前月比では全体的には、在庫量は微増で入庫量在庫量は減少しており、売上高(収入)はほぼ同程度である。品目別では、入出庫量ともに増加したのは、金属製品紙パルプ雑工業品であった。
104. <岐 阜 県 貨物運送 >
全体として、荷物量の減少により業界の景況は悪化している。個人宅配は堅調のようだが、中小運送会社が多く輸送する企業間輸送(貸し切り便)は減少となっている。

105. <石川県 一般貨物自動車 >

輸送需要は対前年比107%で前月より上昇している。燃料価格は前月より下落しているが、昨年同月比で約7.8%上昇。運送コストに占める燃料油脂費は高い割合になっている。

106. <和歌山県 道路貨物 >

燃料価格は国の補助もあり上げ幅は抑えられているが、高止まりの状況が続いている。様々な商品が値上げされているが、運送業での運賃価格への転嫁は進んでいない。

107. <徳島県 貨物運送 >

原油価格は高止まりで、しばらくは下落要素は見当たらず、価格転嫁も思うように進まず、収益は非常に厳しい状況は増すばかりである。廃業を視野に入れる事業者の声も一部聞こえる。

108. <鹿児島県 運輸 >

前半は例年並みの物流であったが、最終週は10月からの食料品値上げに伴い約2倍の物量になった。下りの車両が足りなくなり、空車で荷物を取りに行く状況であった。

その他の非製造業

109. <千葉県 輸出入 >

9月に入り、人の流れが大分落ち着いてきた。外国人入国者の緩和の影響も少しずつ現れてきたようだが、夏の繁忙期を過ぎた今現在も、日本人の旅行者の方が依然、圧倒的に多いと感じる。

110. <新潟県 砂利採取 >

9月度の骨材生産量は前年同月比で103.5%、1月からの前年累計比で106.3%と増加し、ようやく例年並みまで回復した。今後も下半期としての状況を注視したい。

111. <山梨県 老人福祉・介護 >

物価の高騰や円安の影響は少ないが、人手不足が深刻である。仕事の依頼が入っても断らざるを得ない状況のため、売上が減少している。

112. <岡山県 信用組合 >

第7波は少しずつ緩和しているが、回復には至っていない。原油高騰の影響も含め、手厚い資金繰り支援を行っているが、資金繰り、本業支援両輪で今後もう一步踏み込んだ支援が必要である。

113. <広島県 不動産 >

不動産市場は、事業所用地・建売建築素地不足による業者の土地仕入価格の上昇が続いている。また、依然として建築資材の納品遅延により、完成工事の遅れが出ている。

114. <福岡県 貸金業等 >

コロナが落ち着き、景気が緩やかに上向いてきたようだが、質屋業界は相変わらず業況は芳しくなく、廃業もしくは組合脱退を検討している組合員が増えている。